（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団松涛会	代表者	斎藤　正樹
事業所名	小規模多機能型居宅介護やすらが丘	管理者	中尾　効史

法人・事業所の特徴	一人ひとりのケアを大切に利用者の意思を尊重した介護支援を目標に実施して参ります。「あなたの歓びがわたしの生きがいです」をスローガンとしています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	良い評価が継続するように職員の質の向上を目指し各職員に自己研鑽の目標を持ち実施したい。	業務多忙や制約の元出来ていない意見があるが、実現可能と思われるので調整してほしい。 研修や利用者とのコミュニケーション、職員同士の意見交換はよく出来ている。	自己の行動を振り返り、他の職員と確認しあうことで、事業所全体の質を向上させることが自己評価の目的である。しっかりと評価を行っているので継続してほしい。	スタッフ間で意見を出し合い利用者の情報共有や地域活動のあり方等具体的な計画を立てた。それらをひとつずつ実践して行けるよう事業所をレベルアップさせる。
B．事業所のしつらえ・環境	有料老人ホームとの同一建物でもあり、不審者の侵入を防止今までどうり継続してまいります。	外から見える中で不審者の侵入を防止するシステムは完備しておりサービスの質は高いと思われる。	事業所は明るく清潔で居心地の良い空間を形成していると感じる。立地が国道に面している為離設については充分に注意して頂きたい。	今後もご利用者や面会の方、見学の方に快適な空間を提供して行きたい。 防犯や離設についても今まで通り注意を継続する。
C．事業所と地域のかかわり	地域との関わり、知名度アップに地域行事への参加を業務の一環として出来る限り取り組んでいきたい。	行事参加は意欲的に行おうとしているが、関係性はまだまだ不足している。	従業員は笑顔で挨拶している。 小規模多機能居宅介護というサービスが良くわからないと意見が未だ多い、事業所から機会の折には説明をしてほしい。	地域で頼りのなる事業所を目指し、前年よりひとつでも多くの行事に参加し、アピールする。 事業所の存在やサービス内容を知って頂き一歩一歩前進する。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	行事への参加、近隣との交流をできる限り積極的に実施していきたい。	地域との交流、まだまだ不足しているが、徐々に開かれた施設になっていくと思う。	横野地区は地域の行事が盛んである為、利用者だけでなく従業員も積極的に当該行事に参加してもらいたい。	今後も運営推進会議の情報で地域の行事に利用者を連れ出し、職員と共に積極的に参加する。
E．運営推進会議を活かした取組み	「地域の方の事例検討」の項目欄回答でわからないを選んだ方が多くいた事で事例報告ではなく、参加者と事例検討する方法で実施していきたい。	共同での事例検討の取り組みがない。この会議が実質的に発展する為更なる工夫が必要である。	虐待や身体拘束に関する説明を今後とも会議を利用して地域に周知してもらいたい。 会議に参加した者がより多く発言できる雰囲気作りが大事である。	地域の代表の方が多く参加されているので、事業所の報告だけでなく、地域の中での心配なケースや困難事例を聞き、地域にとって有意義な会議にしたい。
F．事業所の防災・災害対策	家族、近隣の方に周知が不足していた、法定訓練時は関係者近隣等に周知し実行したい。	家族、近隣の方への周知がまだまだ不足している。	防災、災害対策は反復してやることが大事である。 地域住民に参加してもらうことは地域交流だけでなく地域住人の防災知識の向上にも役立つ。	地域の消防団の方にも今後会議に参加して頂き、専門家としてのアドバイス、指導を受ける。 地域の方にも訓練に参加して頂き防災対策を協働で取り組む。